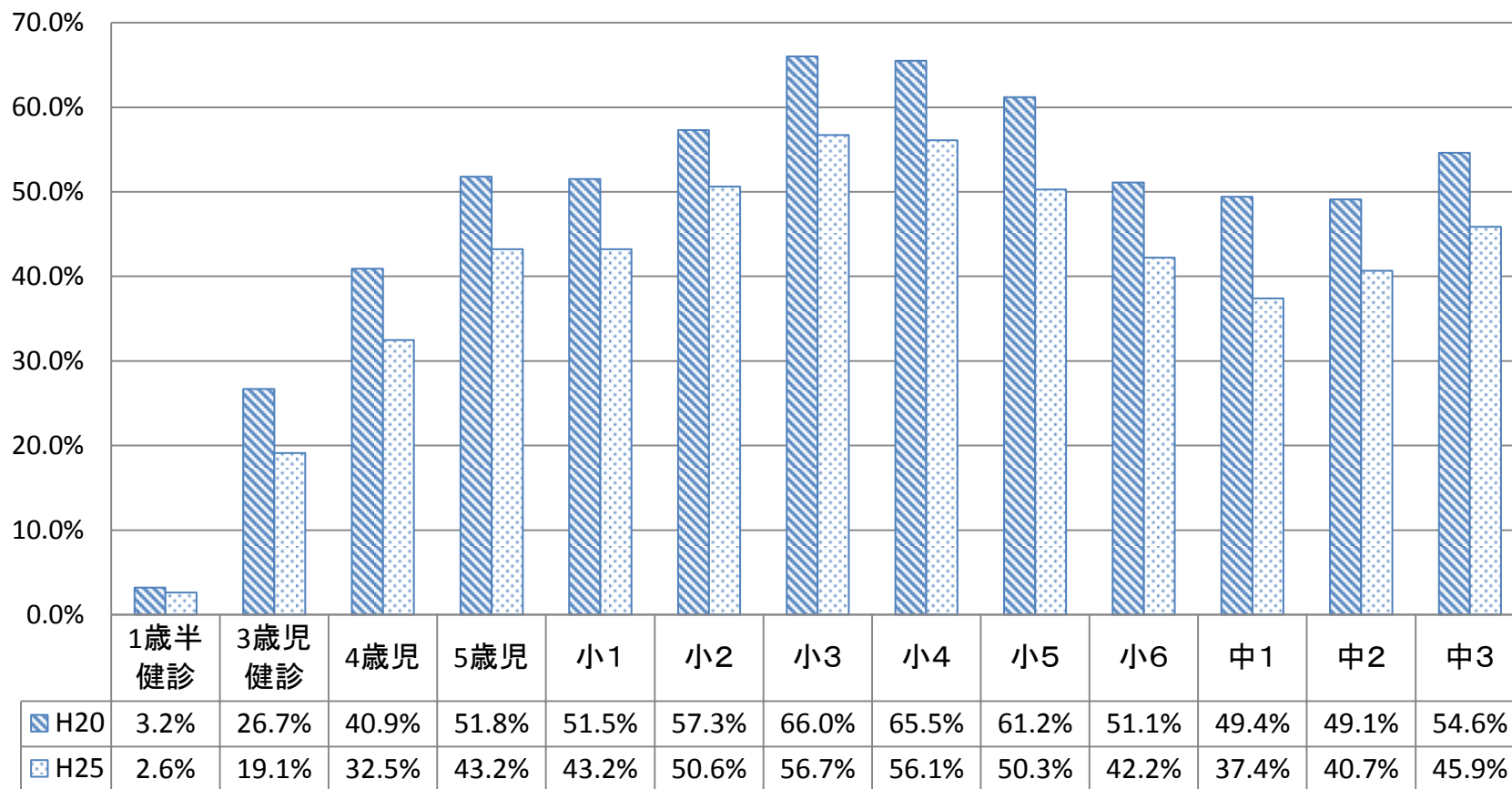


1 幼児期・学齢期におけるう蝕有病者率(H20・H25年度比較)

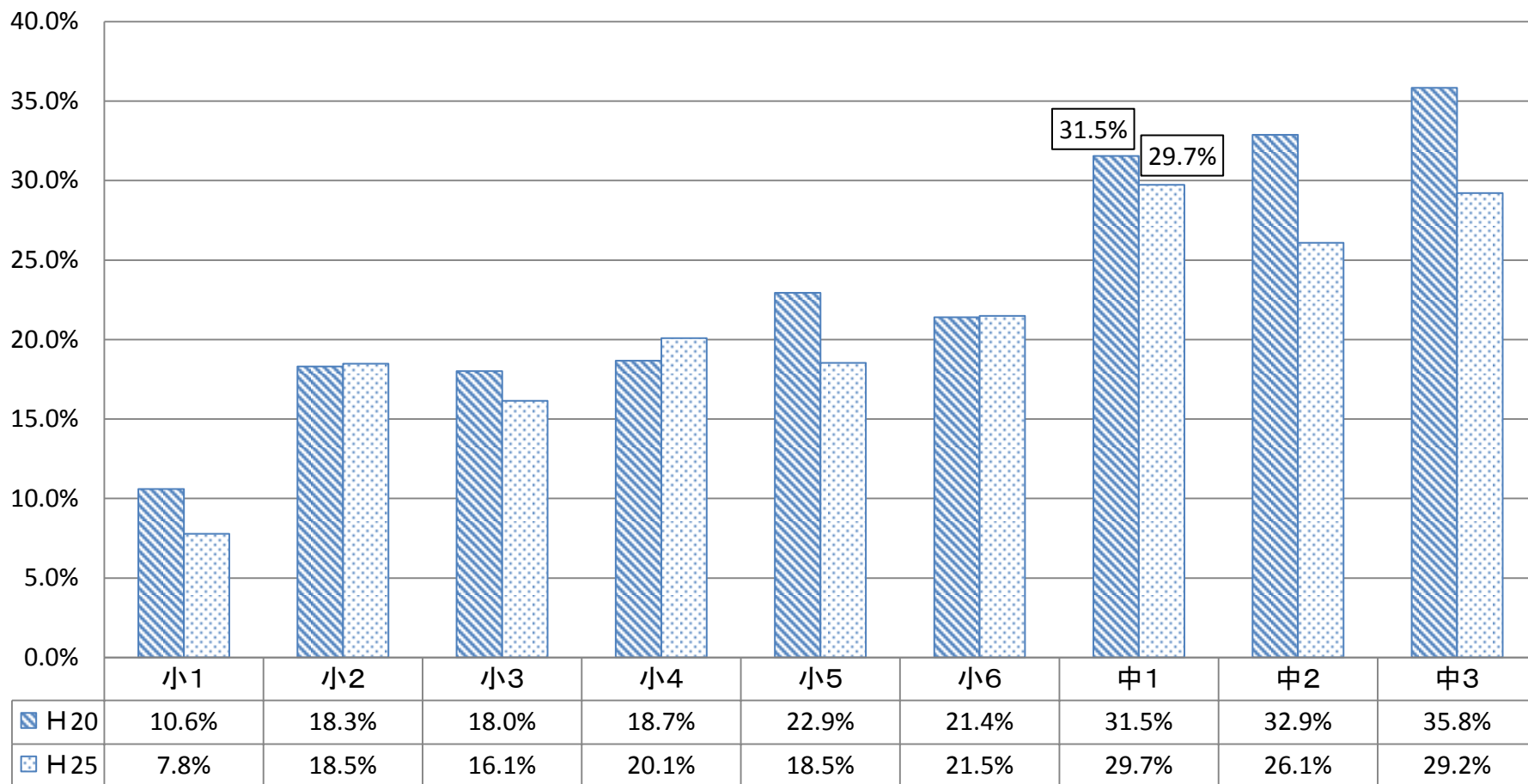
う蝕有病者率は各年齢とも減少しているが、児童・生徒の37～57%はう蝕有病者である。



※4歳・5歳は公立保育所の歯科健康診査の状況

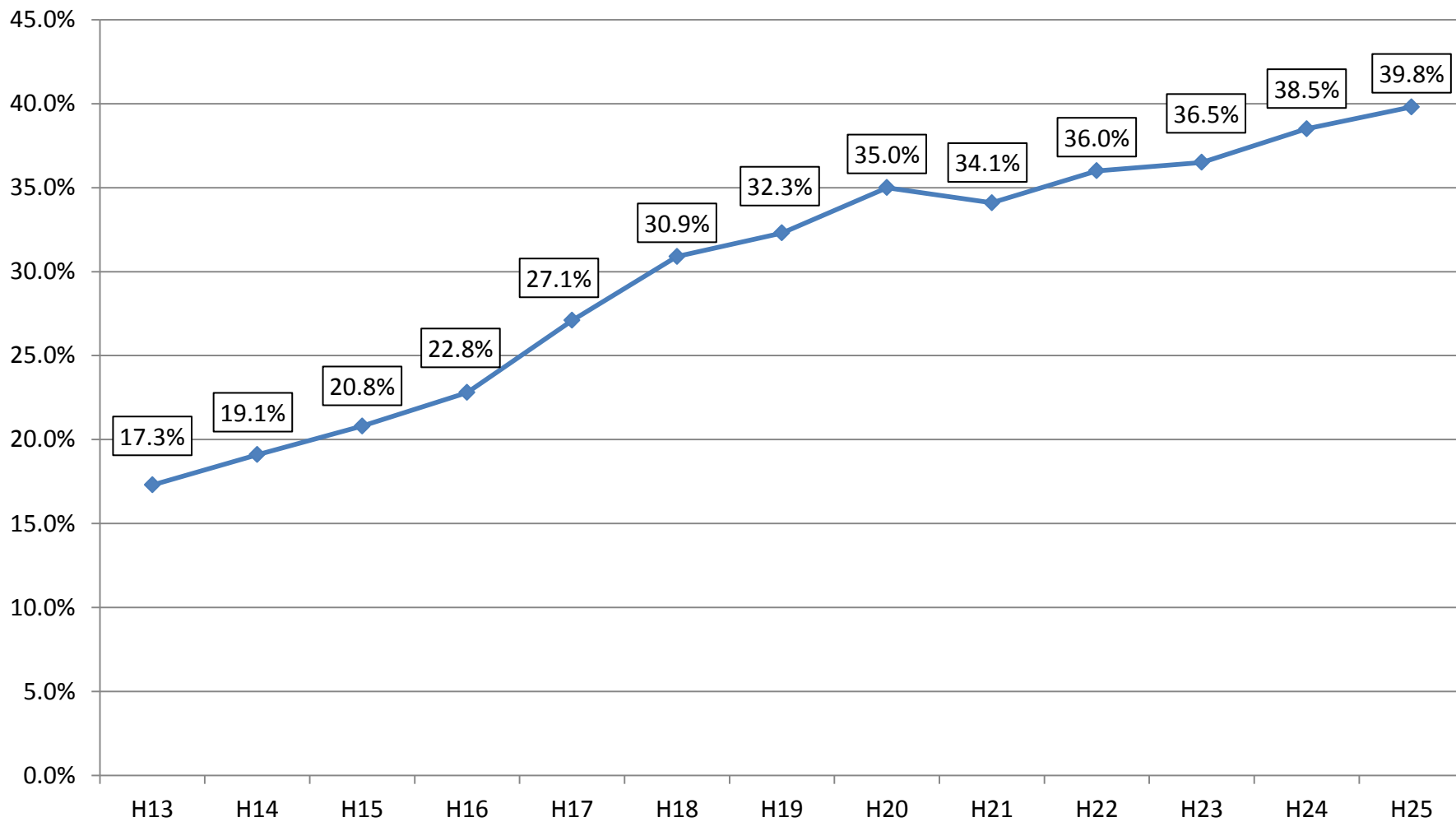
2 学齢期における歯肉の要観察・要精検者の割合 (H20・H25年度の比較)

歯肉の要観察・要精検者の割合は各年齢ともほぼ減少しているが、年齢が上がるにつれ増加している。



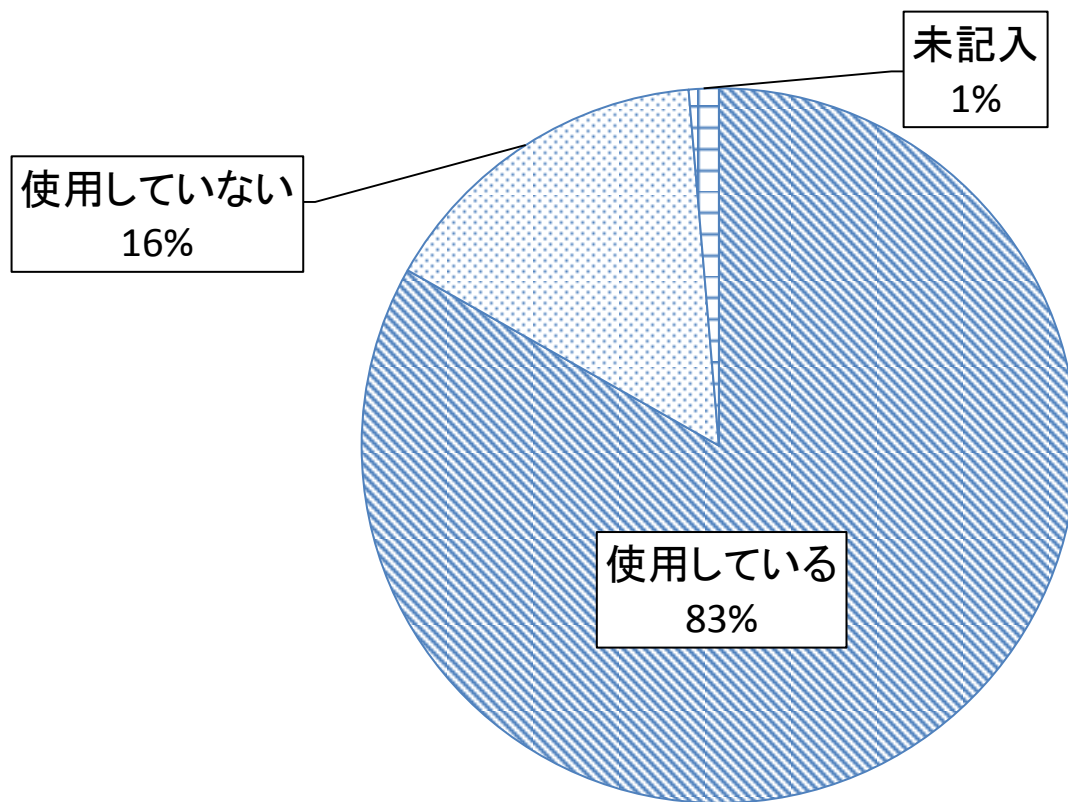
3 3歳児のフッ化物歯面塗布者率の年次推移 (H13～H25年度 3歳児歯科健康診査結果)

新世紀ちば健康プランの策定時期より年々増加しているが、50%には達していない。



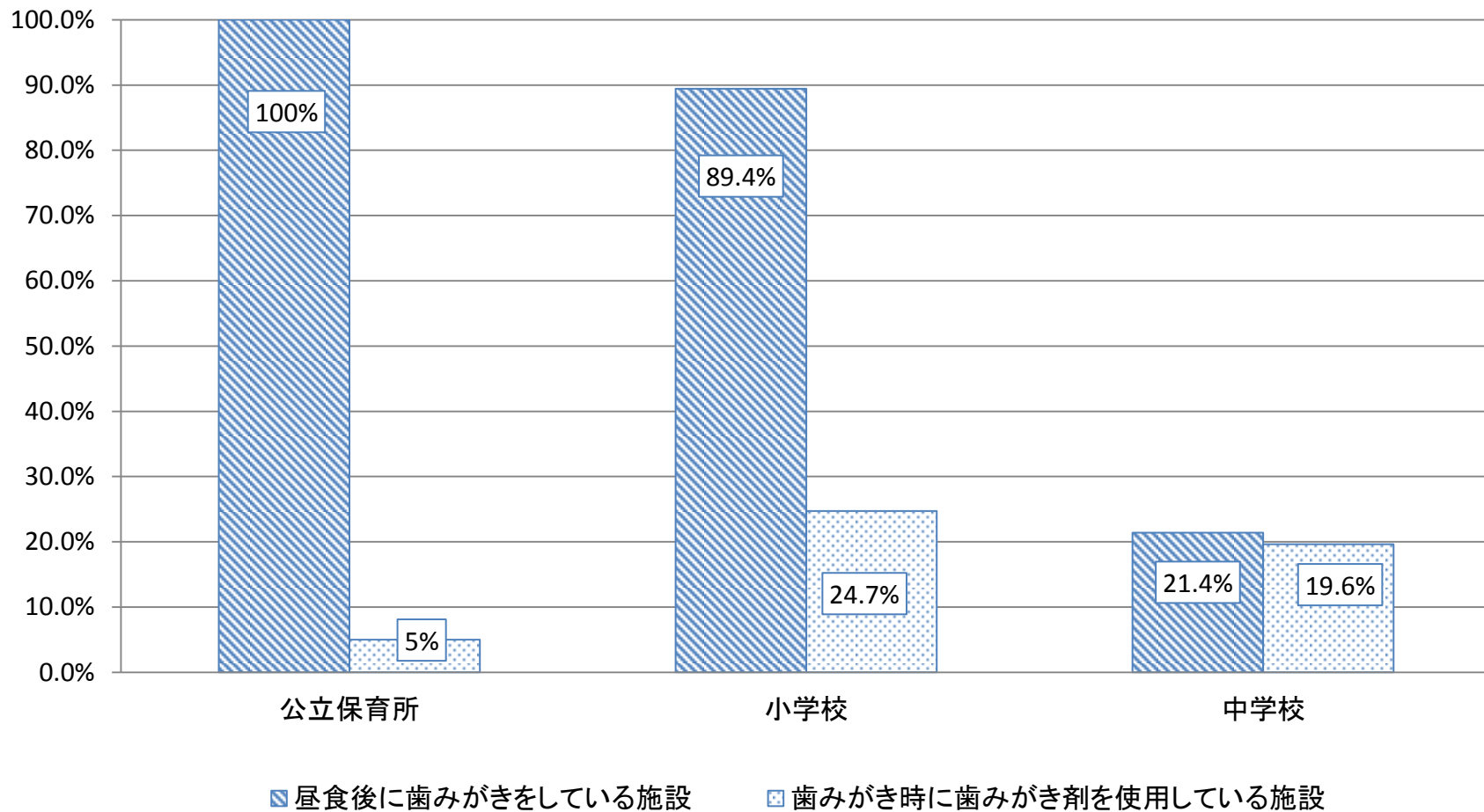
4 3歳児のフッ化物配合歯みがき剤の使用の有無 3歳児健診(H25.5.1~8.15)結果

約8割が使用していると回答している。



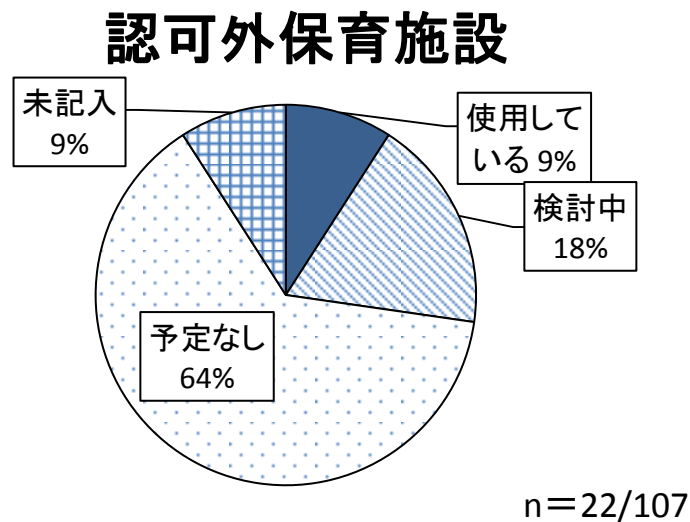
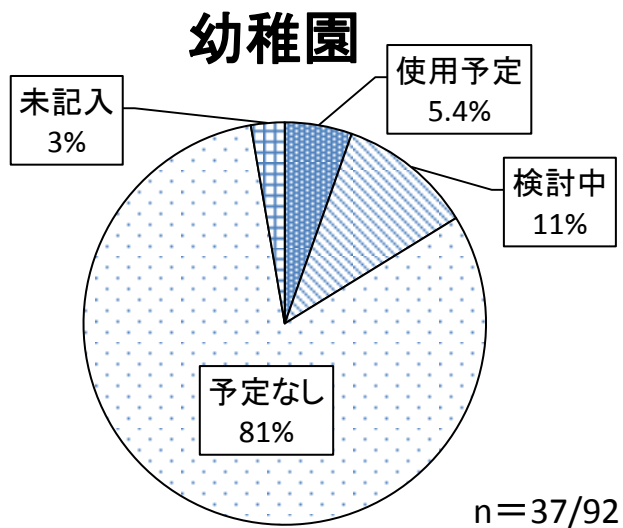
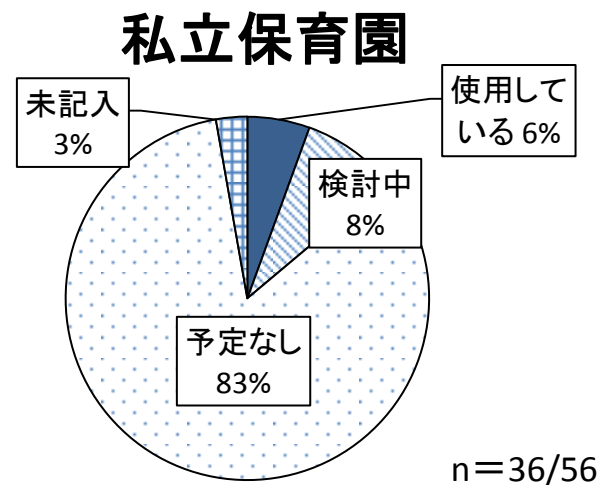
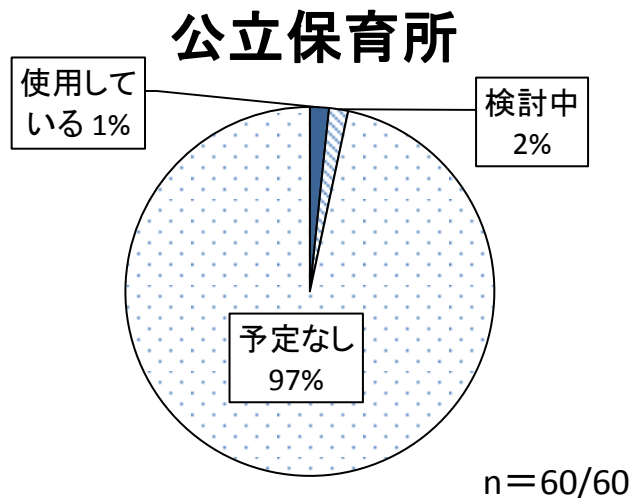
平成25年 n=2,358

5 公立保育所・小学校・中学校における昼食後の歯みがき等の状況 (H25年度)

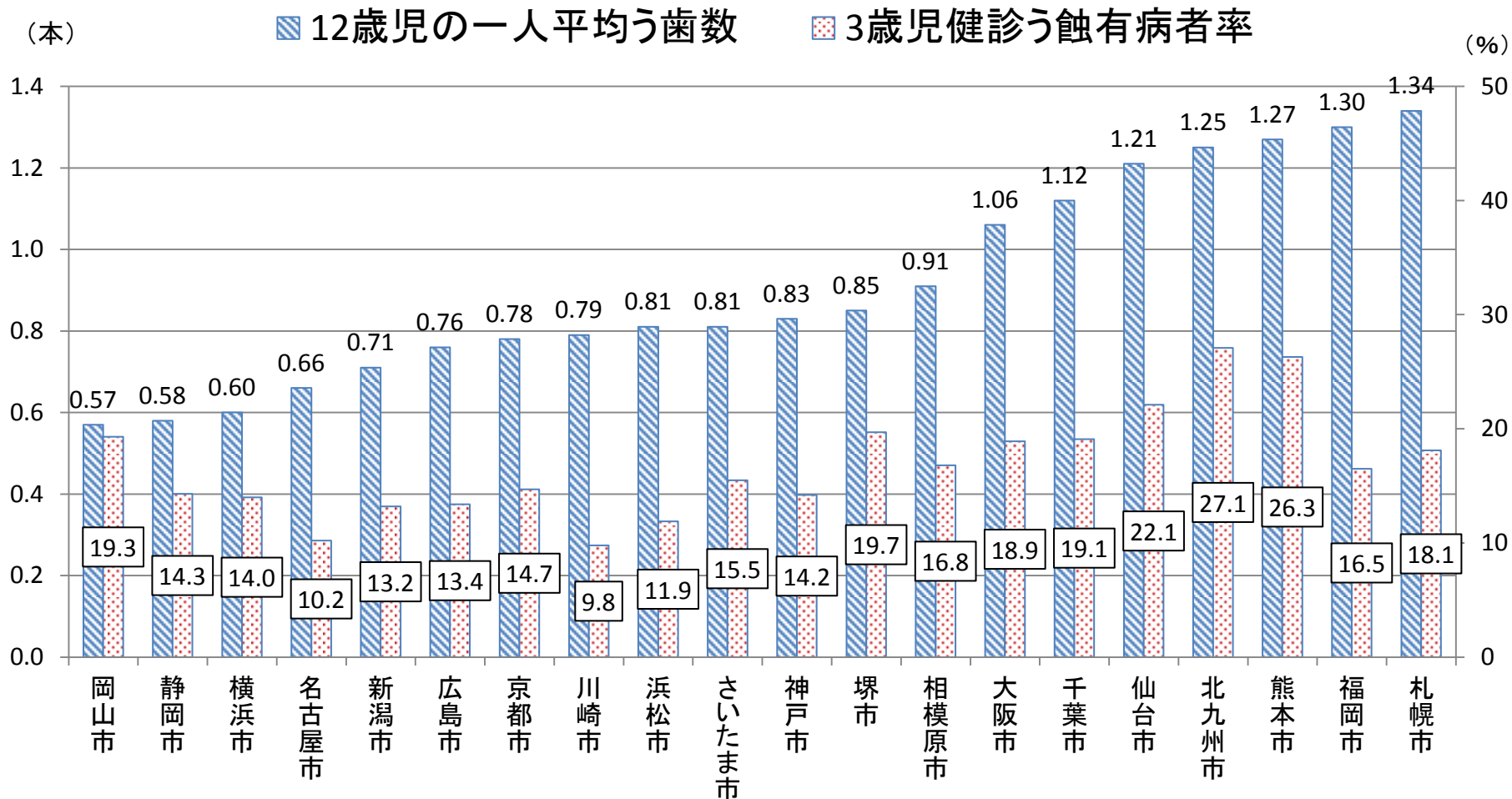


6 保育所・保育園・幼稚園における昼食後の歯みがき時の歯みがき剤の使用状況

(H26年度千葉県乳幼児口腔保健指導事業中央講習会アンケート結果)



7 政令指定都市 12歳児の一人平均う歯数(H24年度)と 3歳児健康診査(H25年度)のう蝕有病者率

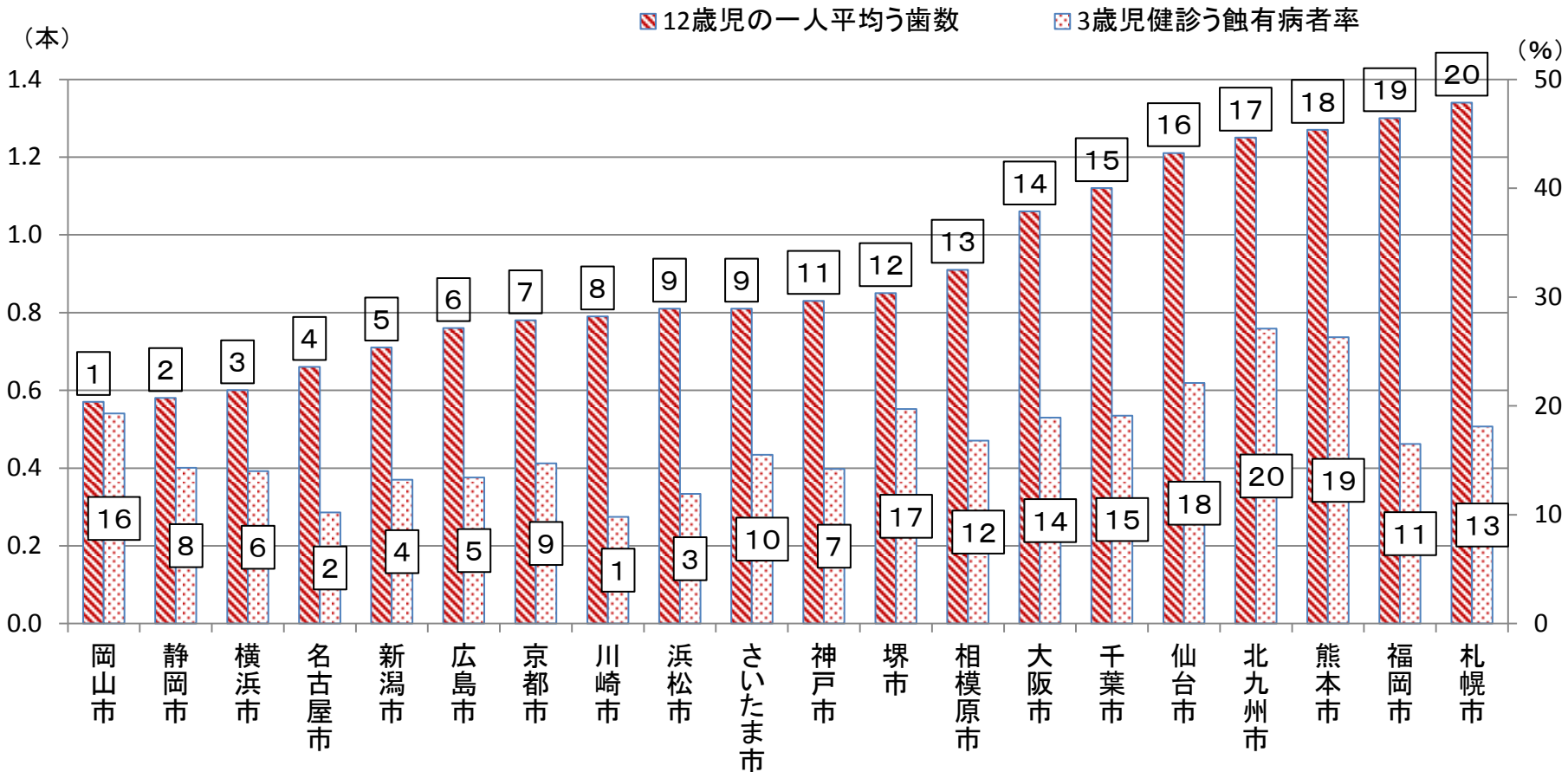


注釈 12歳児のデータはH25年度 新潟市の調査より参照

※1:横浜市のデータは小数点第1位まで ※2:広島市は平成23年度データ

※3:同数の場合、人口規模を参考に配列 ※4:札幌市は抽出校のみのデータ

8 政令市における3歳児健康診査う蝕有病者率順位・12歳児の一人平均う歯数の順位とフッ化物洗口実施状況

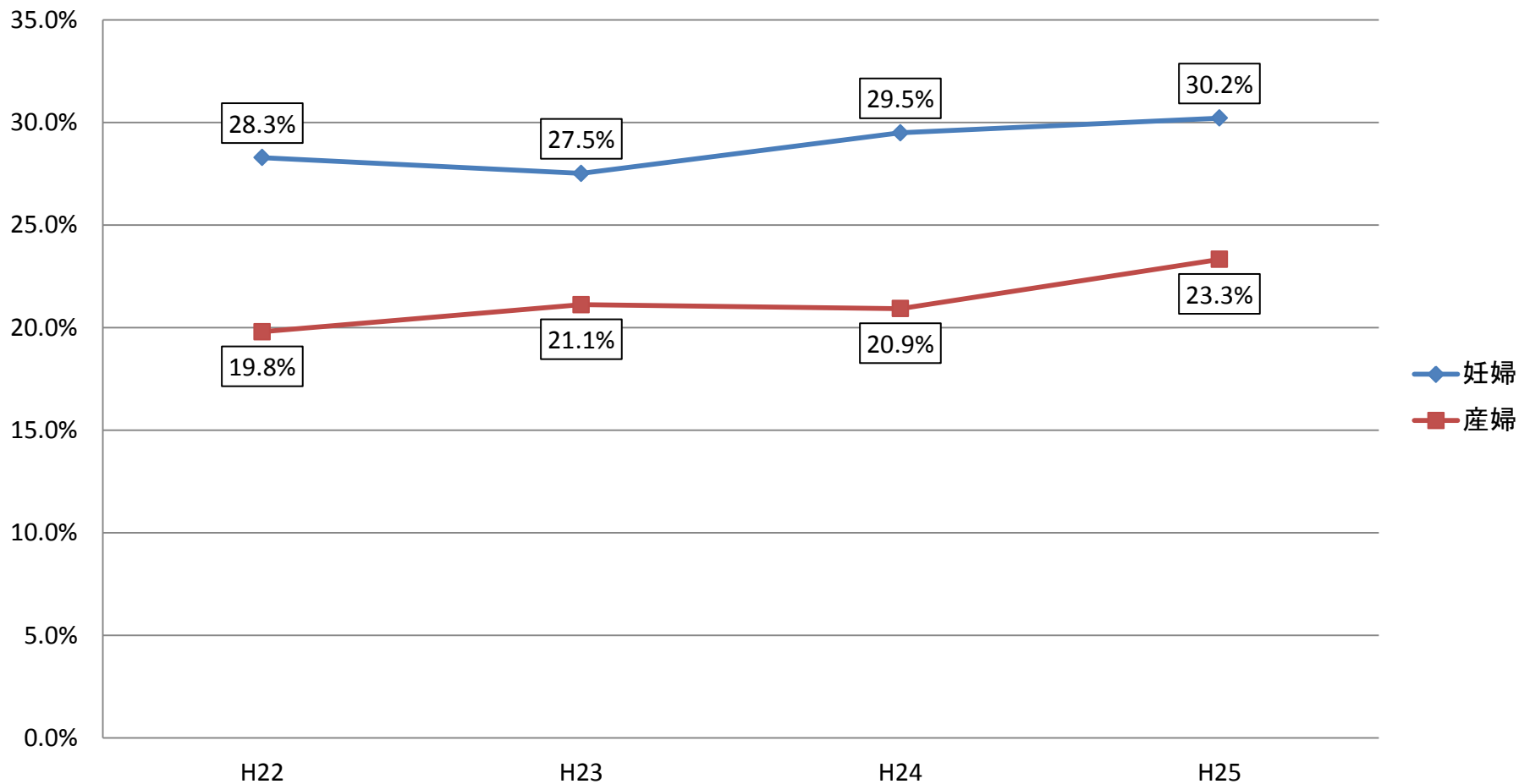


4.5歳	○	○	×	○	○	×	○	○	○	×	○	×	×	—	×	○	×	○	×	—
小中学生	○	○	×	×	○	×	○	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

※フッ化物洗口については、平成24年仙台市・熊本市の調査結果

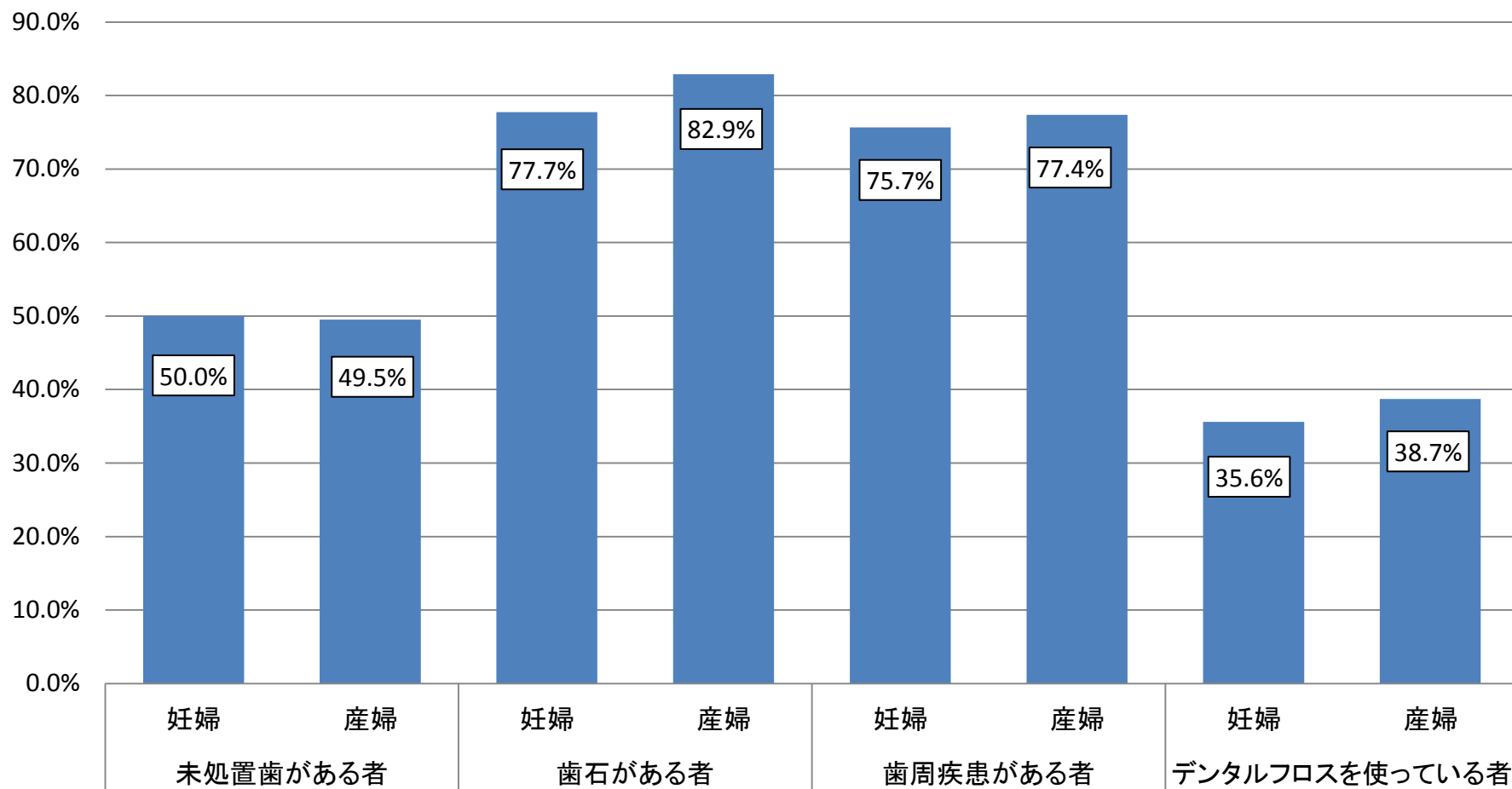
9 千葉市妊産婦歯科健診受診者率の年次推移 (H22～H25年度)

妊婦・産婦健診とも受診率はわずかながら増加している。

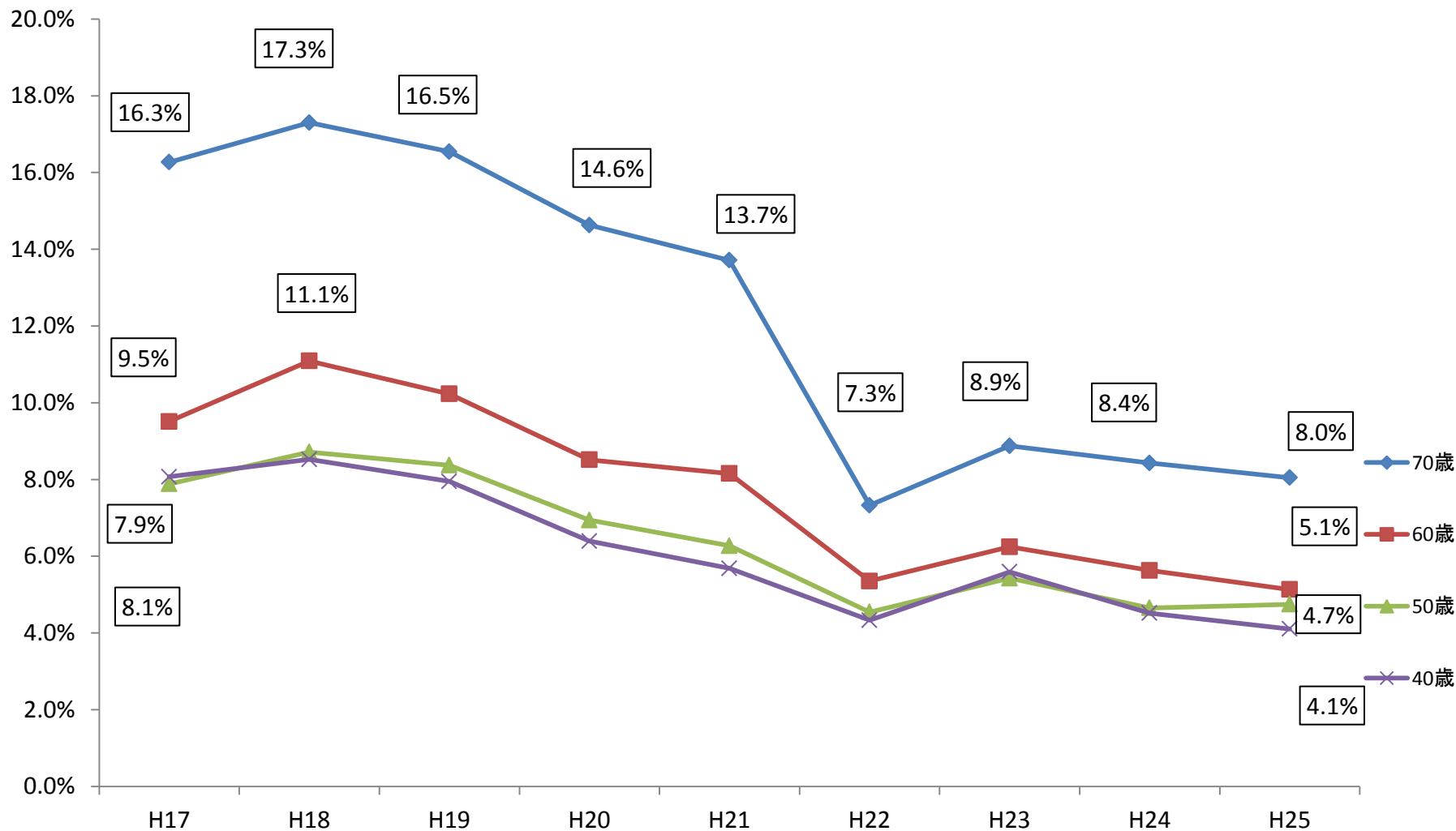


10 千葉市妊産婦歯科健診結果

(H25年度)



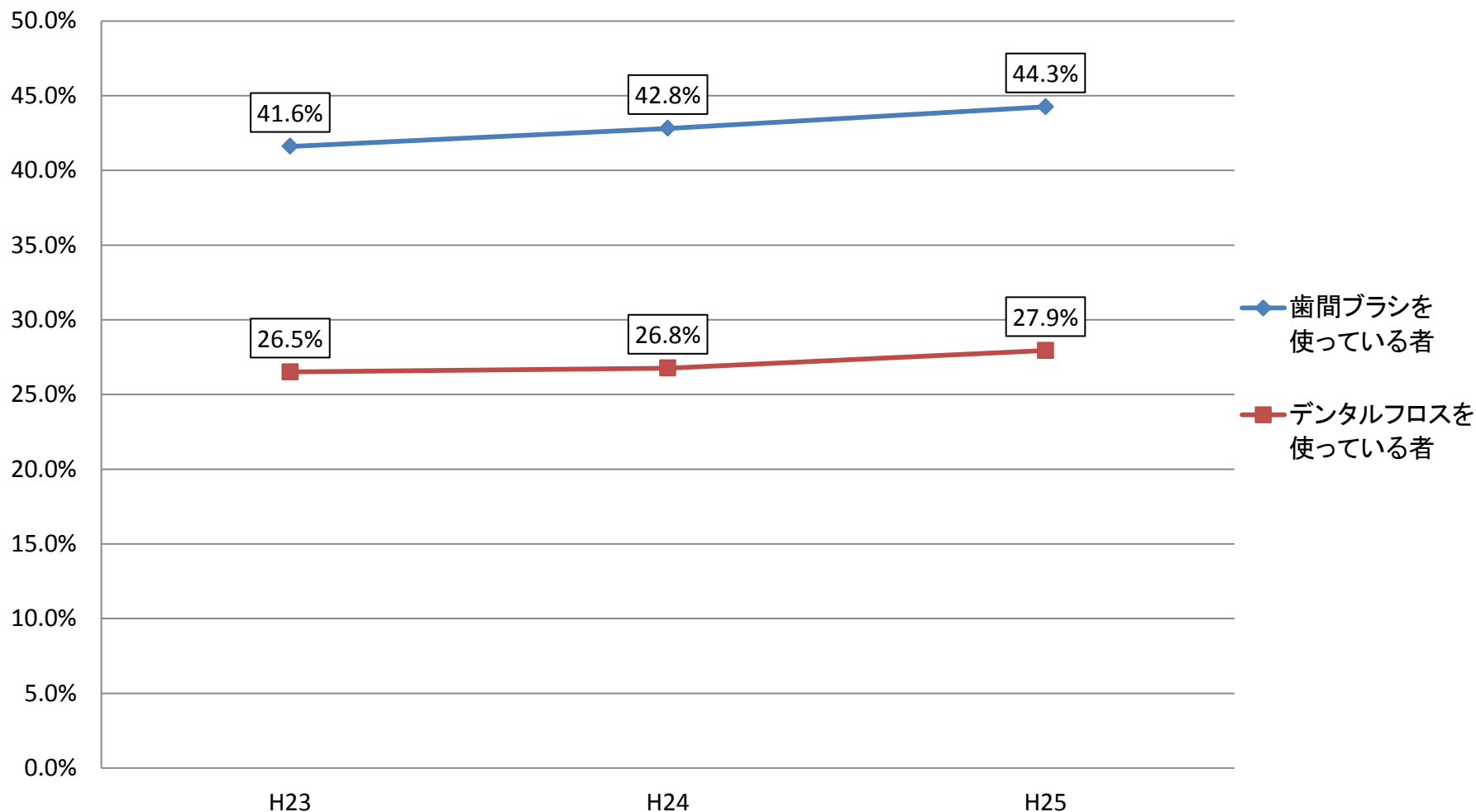
11 千葉市歯周疾患検診(40・50・60・70歳)受診率の年次推移 (H17~H25年度)



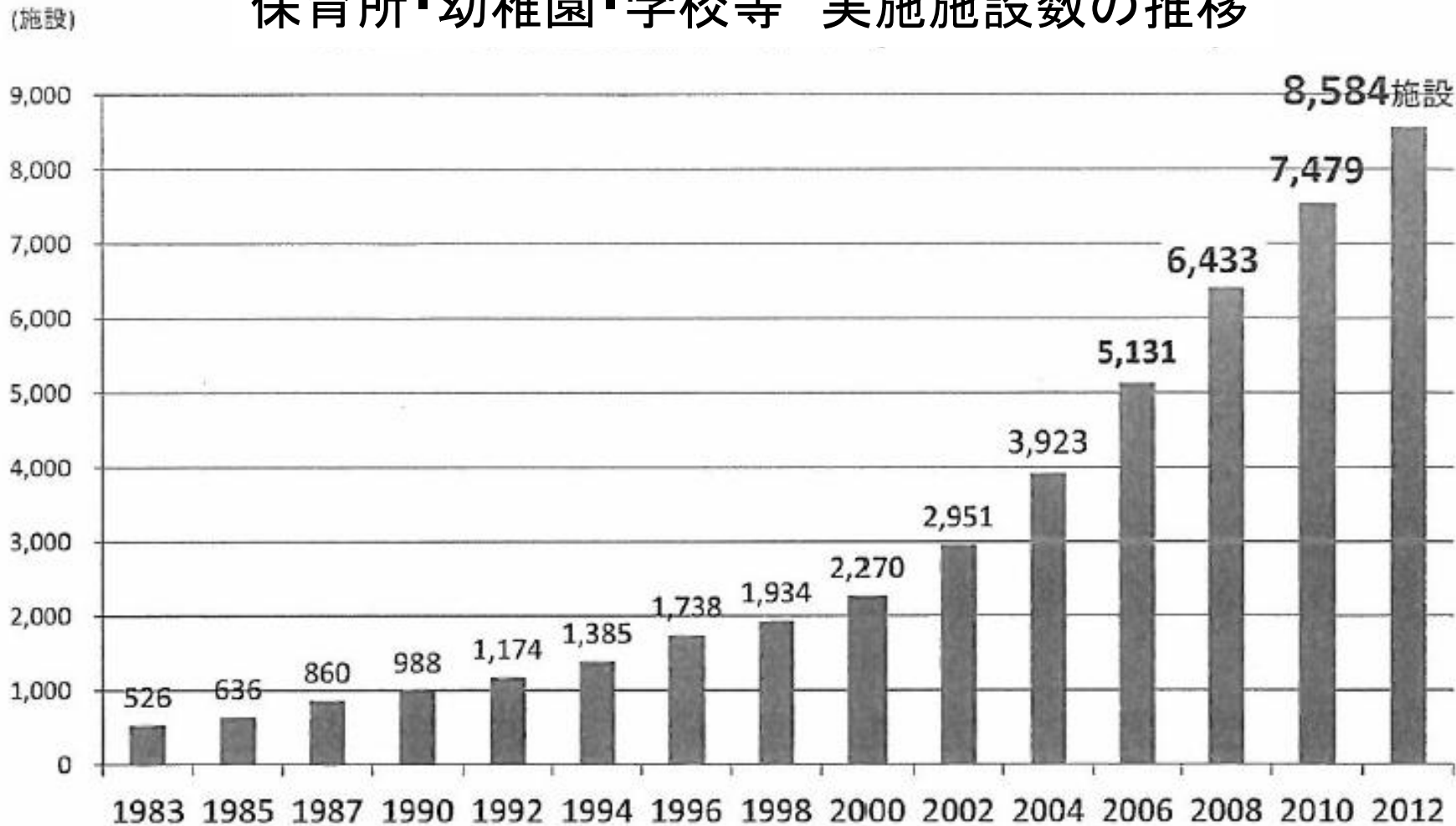
※歯周疾患検診はH13年度40・50歳に開始し、H17年度に60・70歳へ拡充した。

12 歯間ブラシ・デンタルフロス使用状況の年次推移 千葉市歯周疾患検診の結果 (H23～H25年度)

歯間ブラシ及びデンタルフロスを使用する者の割合はわずかながら増えている。



13 全国集団フッ化物洗口実態調査 (1983～2012年) 保育所・幼稚園・学校等 実施施設数の推移



1983ー2002年 日本むし歯予防フッ素推進会議調査

2004、2006年 NPO法人日本むし歯予防フッ素推進会議調査

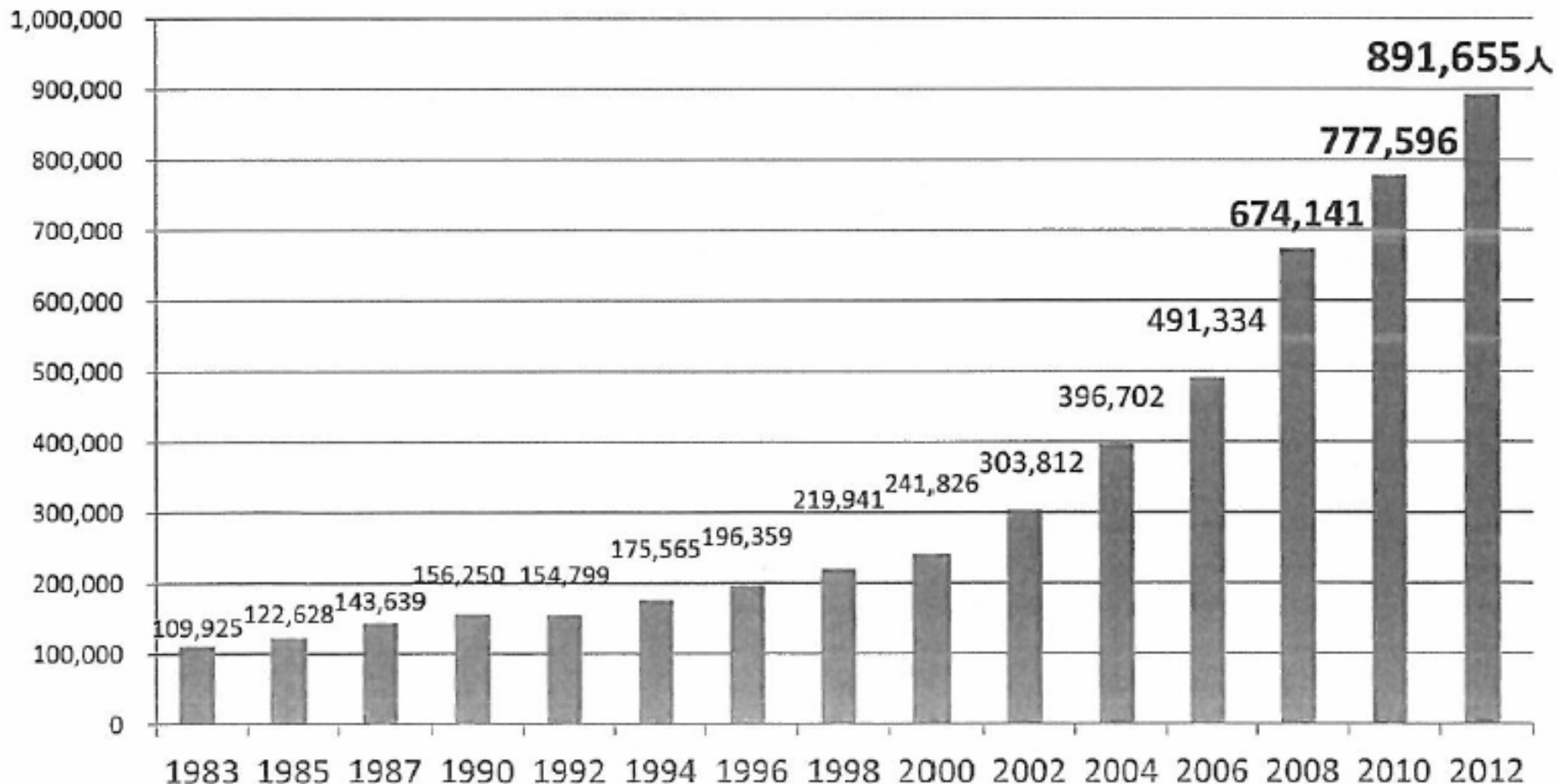
2008ー2012年 NPO法人むし歯予防フッ素推進会議、財団法人8020推進財団、WHO口腔保健協力センター共同調査

14

全国集団フッ化物洗口実態調査 調査別実施人数の推移

(1983～2012年)

(人数)



1983－2002年 日本むし歯予防フッ素推進会議調査

2004、2006年 NPO法人日本むし歯予防フッ素推進会議調査

2008－2012年 NPO法人むし歯予防フッ素推進会議、財団法人8020推進財団、WHO口腔保健協力センター共同調査